

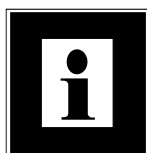


No. 23

2008 - 11 - 25

日本蜘蛛学会

## インフォメーション



### 次期会長・評議員 選挙開票結果報告

次期会長・評議員選挙（任期は2009年4月1日～2012年3月31日）の開票結果を報告いたします。

#### 会長選挙

投票総数 88票（うち白票1票，無効2票）

有効投票数 85票

当選：鶴崎 展巨	30票
次点：新海 栄一	27票
次々点：小野 展嗣	14票

#### 評議員選挙

投票総数 880票（うち白票53票，無効26票）

有効投票数 801票

1. 新海 明	60票
2. 小野 展嗣	49票
3. 加村 隆英	46票
4. 井原 庸	41票
4. 加藤 輝代子	41票
6. 吉田 真	38票
7. 田中 一裕	37票
7. 吉田 哉	37票
9. 田中 穂積	33票

10. 西川 喜朗	32票
11. 新海 栄一	31票
12. 鶴崎 展巨	29票
13. 八幡 明彦	25票
14. 松田 まゆみ	22票
15. 榎元 敏也	18票

評議員選挙で選ばれた上位10名の中から幹事が選出された場合には，順次繰上げ当選となります。

2008年度会長・評議員選挙管理委員会

桑田隆生・仲條竜太・中西亜耶

なお，本選挙被選挙人名簿にお亡くなりになった斎藤慎一郎さんを掲載しておりました。ご迷惑お掛けしましたこと，謹んでお詫び申し上げます。



## トピックス

### 日本蜘蛛学会第40回 大会学会日記

2008年8月23日から24日にかけて，大阪城を眺める追手門学院の大阪城スクエアにて日本蜘蛛学会第40回大会が開催されました。追手門学院といえばクモの名門です。さらに私にとっては初の蜘蛛学会，そのうえ初の学会発表。

ということで大変緊張しながら東京駅発の夜行バスに乗り込みました。

## 1 日目

タフさが取り柄の貧乏学生御用達、夜行バスには三列シートタイプと四列シートタイプがありますが、今回私が購入したのは行きも帰りも四列シート。見知らぬ隣人に寄りかかれ、寝入る頃に起こされながらのバス旅は全然辛くないといえば嘘になります。やや寝不足気味で朝6時過ぎに難波へ降り立つと、生憎雨が降って

いました。開場までの空き時間にはどこかで採集でもしようかと計画していましたが、出で立ちが学会仕様のため雨にも蚊にも丸腰です。仕方なく朝マッ（関西だから朝マド？）で時間を潰していたら、気づけば出発がギリギリになっていました。会場に到着するともう大方の参加者は集まっているようで、挨拶

もそこそこに、慌ただしくポスターをボードに貼る作業を始めました。初の学会発表にはポスター発表を選んだのですが、全体でA0サイズのポスターを紙3枚に分割して持ってきていたため、慌てて貼るには難しく、セロテープが変な所へくっついたりしてテンヤワンヤでした。手伝ってくださった方々に感謝です。今後ポスター発表をされる予定の方には、ポスターは予めすぐに貼れる状態にして持ってくることをお勧めします。そんなこんなでいきなり先行きが

思いやられつつ、なんとか開会には間に合ったのでした。

午前中の講演は分類に関する講演やワスレナグモ、トタテグモに関する講演等の6題でした。中でもワスレナグモの巣穴の分布を300m<sup>2</sup>の範囲にわたり詳細に調べた佐藤隆士さんの発表は、自分もキシノウエトタテグモで同じように巣の分布をプロットしていたので（といってもスケールや解析においては全く歯が立ちませんが...）大変興味深いものでした。次の八幡

さんの発表は更にスケールが大きく、GISを用いて、ほぼ日本全国におけるキシノウエトタテグモの分布/非分布のデータと、平地/斜面地というシンプルな環境要因から生息適地を解析していました。自然保護委員会で取り組んでいるイソコモリグモも含め、地中性のクモの分布調査は崖や地面に張りつくことが必須でとても大変ですが、にも関わらず今後



2008年度日本蜘蛛学会大会会場大阪城スクエアの窓から間近に見えた大阪城

も様々なスケールで研究が発展していく予感に非常にワクワクしています。

午後の総会では学会誌の在庫についての議題が上がっていました。捨ててしまっても差支えないでしょうか、との問いかけに、多くの会員から他に活用の道はないのかと意見が出ていました。貴重な研究の成果が印字された冊子がむざむざと廃棄処分になるのは、まだ自分の成果を発表していない私にとってさえ残念で、また勿体なく思います。しかし感情論を抜きにすれ

ば、特に電子ジャーナルで読める最近のものについては、今後売れるかという疑問が残ります。保管のために使える空間も限られているでしょうし、在庫保持のコストは意外に高いことでしょう。費用対効果を考えるとなんと難しい問題かと思えます。何といても売れるのが一番いいのは明らかですから、なんとか頑張って販売の方向に活路を見出せるとよいのですが。

総会の後はいよいよ私にとって学会発表デビューとなるポスター発表の時間です。緊張の糸が再びピンと張りつめるのを感じつつポスターの前へ移動すると、いつも東京クモゼミ等でお世話になっている谷川さんがいらっしゃり、気さくに話しかけてくださったのでずいぶん助かりました。その後も次々と、途切れることなく様々な方が私のポスターの前に訪れてくださり、1時間はあっという間に過ぎました。キシノウエトタテグモの仔グモの分散距離を知るために蛍光粉末で標識をした、という発表をさせていただいたのですが、クモの移動分散に興味を持っている方の多いことや、それらの方々のこれまでの試みや失敗例、今後の課題等についてたくさんの貴重な意見をいただくことができ、発表時間の終わる頃にはなんだかとても元気が出ていました。最初は不安な点もありましたが、発表できてよかったです。データはあるけど学会発表未経験、という方はぜひ挑戦してみてください。今回私は他の方のポスター発表を聴くことはできませんでしたが、発表者のいるどのポスターの前も混雑していたようなので、きっと活発な議論が繰り広げられていたことでしょう。

ポスター発表の後は再び一般講演に移り、地球温暖化によるクモの分布の変化に関する話題を含む7題が発表されました。地球温暖化によ

る分布の拡大や変化は今後も様々な種で起こると考えられますが、オオジョロウグモとイソウロウグモ類を材料に、ある種の分布の変化が、他の種の分布や個体数に与える具体的な影響を示唆した宮下さんの発表はとても興味深かったです。講演の順番を遡りますが、新海栄一さんも熱帯性のクモ類の分布の北上について発表されていました。新海栄一さんといえばクモ学界では大御所のひとりですが、「国会議事堂とマルゴミグモ(北上している熱帯性のクモの一種)を一枚の写真に写したかった」というお話とともにスライドを映したとき、議事堂前で一生懸命カメラの設定を変えながら一人小さなクモを撮影する姿が思い浮かんで、なんだかとても親近感の強まる思いでした。その前の講演の入江さんも、クモに棲み処を提供するために、きちんと積んであるトタンをわざと乱雑に積みなおすのだというお話をされていて、大御所の方々も結局はすっかりクモの虜になった人ということなのだなあと感じました。

さて午後の講演の後は会場を移して懇親会です。大会実行委員の方々の挨拶の後、余興と称して伊藤さんがクモ体操を披露してくださいました。まず両手を握った状態から親指、人差し指、中指をそれぞれ「愛、誠、勇気」の掛け声とともに伸ばします。これで私たちは三爪類のクモです。その後「ワン、ツー、スリー、フォー」の拍子にのせて腕を伸ばしたり振り回したり独特な体操が続きます。見ている分には非常に面白いこの体操ですが、懇親会会場の外、ひいては建物の外から丸見えという位置に陣取っていたため、やるのは少々恥ずかしい感じもしました。しかし周りを見渡しても全員体操しているように見受けられ、KYKY(空気読めるけど読まない)を発動しようかとも思いましたが、初学会であまり反感を買うようなことは



池田勇介君の音頭による乾杯

できない、そもそも愛と誠と勇気の前には逆らえない、との思いからおとなしく参加したのでした。池田君の中学生とは思えないほどしっかりした乾杯の音頭で飲み会が始まると、あっという間に時間は過ぎ、二次会、三次会と夜は更けていきました。

## 2日目

前日三次会まで参加し、気持ちよく帰ったまま寝てしまったので朝風呂等で5分ほど遅刻して会場に着くと、丁度シンポジウムが始まるころでした。トップバッターの馬場さんも昨日三次会までいたのに朝一で発表するなんてすごいなあと、社会的に当たり前なのに感心してしまいました。シンポジウムは「さらに地理的変異を考える」というテーマで4題の講演がありました。チリイソウワグモの体サイズ・脚長と宿主・気候の関係を調べた馬場さんの発表では、地理的変異の起こる具体的な要因が示されていました。ナミハグモ属の地理的変異を広範囲にわたり検討した井原さんの発表では、地理的変異の研究においてはアマチュアの貢献できる部分大きいことも述べられていました。シンポジウムの内容はこのようにどれも興味深いものでしたが、今回が大会初参加のためシンポジウムタイトルにある「さらに」の前段階を知

らない自分としては、全体の統括や前回のシンポジウムで残された課題等についての講演が最初にあると入りやすかったかなと思います。

午後は前日から移動した1題を含む10題の講演がありました。ギンメッキゴミグモを用いて、網の上下非対称性が造網時間を長引かせることを示した中田さんの発表は面白いものでした。クモも難しいことをするには時間がかかる、一見当たり前のようなことですが、小さなクモが自分のいる位置や状況を常に認識しながら造網しているということは、考えてみるほど驚きです。他にも笹岡さんによるクモ刺咬症の文献調査、原口さんによる地表性クモ類の最適採集時期についての発表等、この日の午後はまさに盛り沢山の内容でした。榎元さんの発表ではアリグモのオス同士の闘争行動を動画で紹介していました。今回の大会では他にも桑田さんによるワスレナグモの住居作成行動と捕食行動や、有岡さんによるキシノウエトタテグモの巣のフタへのコケの植栽行動等、なかなか見る機会の無い行動を撮影した動画がいくつか紹介されました。動画は文章で伝えきれない様々な情報を伝えることができますし、単純に見ているだけでも面白いものです。しかし文章と違い、投稿できる場が少ないために、埋もれているデータがまだまだあるのではないのでしょうか。最近では「動物行動の映像データベース」というウェブサイト(<http://www.momo-p.com/>)もありますし、今後のクモ学の発展のためにも、このような動画のアーカイブは一つの課題としてもいいのではないかと思います。

学会は最後に、加村さんによる大阪城公園から採集されたクモ類の、たくさんの写真を交えた報告で終了しました。流れ解散でしたが、私は井原さん、長崎さん、池田君の案内で大阪城公園を巡る学生集団に混ざり、エクスカースヨ

ンを楽しみました。ワスレナグモやキシノウエトタテグモを見、夕陽も落ちた後に軽く飲みながら夕飯を食べて解散。その後一人大阪の繁華街で迷い、半泣きになりながらもようやく夜行バスに乗ると、「東京人はうちらがアホなことやっても笑わへんで」「東京人は高い物買おうて喜ぶって」「東京人は...」と後方の座席で女子高生(?)が東京人談義をしていました。聞き流しつつも、改めて池田君の落ち着きぶりを思い出しながら眠りについたのです。

長くなりましたが、私にとって初めての大会は、様々な刺激を受けることができとても有意義なものでした。関東に住んでいるので、関東以外の方々とお会いしたり研究のお話を聞くことができたこともよかったです。来年の宮城での大会も今から楽しみです。今度はもっと余裕をもって大会に臨めるよう、がんばろうと思います。

(東邦大院・理・地理生態学研究室 中西亜耶)



## 同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期行物の内容、採集会や講演会(総会・例会)の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

中部蜘蛛懇談会(代表:緒方清人)

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2~4回。総会・研究会を年1回実施。

総会・研究会は2009年2月11日(水)を予定。

蜘蛛(KUMO)41号(2008.7.20発行)

加村隆英:コウライタンボグモとミヤマタンボグモ

田中一裕:オオヒメグモの天敵、マダラコブクモヒメバチの生態

緒方清人:ベッコウバチに狩られたコアシダカグモ

緒方清人:間苺溪谷のクモ

新海 明:(続)クモの巣と網の不思議 ユアギグモのシート状の円網

福島彬人:砂に潜るコモリグモ3種

徳本 洋:日本国内(奄美大島以南を除く)の沿岸地域におけるジョロウグモの分布状況

永井 均:ワスレナグモの母グモは1カ月強しか巢の口を開けないのか

清水裕行:愛知県ゴケグモ事情

太田定浩:鈴鹿市の自然調査について

柴田良成:一期一会 斉藤慎一郎さんの思い出

村上 勝:我が家で見かける蜘蛛

家股幸子:雑記ヒラタグモ

貞元己良:アメリカのクモ採集記

杉山時雄:ワクトツキジグモ発見



2007年度中部懇談会総会研究会

須賀英文：日本の近代文学に登場する蜘蛛 ~  
明治・大正時代 ~

入会申し込み他

全般について

〒472 - 0022 知立市山屋敷町東山 10 - 6

緒方清人（代表）

Tel 0566 - 83 - 4474

E-mail:neon\_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒451 - 0066 名古屋市西区児玉 1 - 8 - 24

柴田良成（会計）

Tel 052 - 522 - 1920

会費

正会員 年 3000 円（高校生以下 1000 円）

準会員 「まどい」のみ 1000 円

三重クモ談話会（会長：橋本理市）

会報「しのびぐも」を年 1 回発行．採集会・合宿・例会などを年数回実施．

採集会は

2008 年 11 月 30 日（日）鳥羽市・伊勢市一带  
鳥羽駅 午前 10 時集合

2009 年 2 月 1 日（日）鳥羽市・伊勢市一带  
鳥羽駅 午前 10 時集合

参加希望者は必ず 1 週間前までに事務局に連絡  
ください．

総会は，2009 年 4 月に予定．詳細は後日連絡  
します．

しのびぐも 35 号（2008.5.31 発行）

新海 明：流水面に張る「すだれ状」の網 - ナ  
ルコグモ

太田定浩：鈴鹿市の自然環境調査を終えて  
貝發憲治：松阪地域の真正クモ類相の概要  
橋本理市：書評「クモの網」を読んで  
三重クモ談話会：2007 年度活動報告

入会申し込み

〒515 - 0087 三重県松阪市萌木町 7 - 4

貝發憲治（事務局）

Tel ( Fax ) 0598 - 29 - 6427

会費 年 2000 円

和歌山クモの会（会長：米田 宏）

会報「和歌山クモの会会報」を年 1 回発行．総  
会・観察会を年 1 回実施．

和歌山クモの会会報 No.14(2004.9.17 発行)

以降の発行はありません．

内容は，遊絲 15 号を参照のこと．会報 15 号の  
発行は未定です．

入会申し込み

〒649 - 6264 和歌山市西浜 465 - 3 第 2 小  
杉マンション 1 - A

青木敏郎（事務局）

Tel 090 - 1072 - 4414

会費 年 1000 円

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）

会報「KISHIDAIA」を年 2 回，「談話会通信」  
を年 3 回発行．採集会年 4 回・合宿年 1 回・総  
会例会などを年 2 回実施．

今年度の採集会は，埼玉県北本市「北本自然観  
察センター」で実施します．

2009 年 2 月 15 日（日）

J R 高崎線北本駅西口改札前 午前 10 時 00 分

集合・世話人 平松毅久

例会は、

2008年11月30日(日)午前10時から 東京環境工科専門学校 〒150-0011 渋谷区東2-5-3

緊急の連絡先は、加藤輝代子 090-7012-6458 あるいは、初芝伸吾 090-6156-8378 まで

JR 渋谷駅東口(東急文化会館側)より、「学03日赤医療センター行」バスにて5分、「國学院大学前」下車、徒歩1分、170円

KISHIDAIA 94号(2008.9.30発行)

八幡秋山沙和：ズグロオニグモの研究

新井浩司：「あいのこ」トリノフンダマシに関する情報

徳本洋・新海栄一・貞元己良：富山県におけるイソコモリグモの絶滅

新海 明：陸中海岸でイソコモリグモの大産地を発見

新海 明・谷川明男：九州地方のキムラグモ類とトタテグモ類の採集記録(両者の混棲、トタテグモ類の二枚扉の住居例)

西野真由子：野外におけるコガネグモ幼体の占座の限界気温と日周行動

DRAGLINES

新海 明：「あいのこ」トリノフンダマシ採集の記録

笹岡文雄：キノボリトタテグモの産卵数に関する一事例

新海 明・谷川明男：ハタチコモリグモは地中に管状住居を作る？

<目録ドラッグラインズ>

仲條竜太：青ヶ島のクモ

笹岡文雄：文献調査による伊豆・小笠原諸島の



2008年度東京蜘蛛談話会総会例会参加者

### トタテグモ類

貞元己良：庄内平野で採集したクモ

野嶋宏一：岡山県産クモ類目録

緒方清人：愛知県産クモ類目録

### 入会申し込み

〒186-0002 国立市東3-11-18-201 (有)エコシス

初芝伸吾 (事務局)

Tel 042-501-2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年3800円(学生 2000円)

関西クモ研究会(会長：田中穂積)

会報「くものいと」を年2回発行。採集会・研究会例会などを年数回実施。

例会は、2008年12月21日(日)に四天王寺高校で実施。

くものいと41号(2008年11月発行予定)

### 入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会 Tel 0726-41-9550(加村研) Fax 0726-43-9432(大学教務課)



2007 年度関西クモ研究会例会のひとこま

会費 年 1000 円

### 関西クモゼミ

2008 年度は 12 月 14 日（日）に行ないます。

連絡先 吉田 真 077 - 561 - 2660

### 東京クモゼミ

毎月 1 回，第 1 日曜日に千葉県市川市の加藤宅  
で開催．会費などなく誰でも参加できる．

連絡先 新海 明 0426-79-3728

または，加藤輝代子 047-373-3344

## 言いたい！聞きたい！



### INAX ギャラリー展覧会 クモの網 - What a Wonderful Web ! -

八幡明彦

クモの網の標本といえば，船曳和代さんの作品．彼女の作品は科学的な意味でも，アートの意味でもすばらしい．私が彼女の作品を初めて拝見したのは，関西での展示会で，ちょうど 10 年前のことになる．それから何度も博物館で

のクモの網展があった．しかし，今回の「網」展は，少し毛色の違う主催者である．タイルや陶器製品を作っている INAX という会社がもつギャラリーの主催だ．昨年の東京蜘蛛談話会の例会に，INAX 大阪ギャラリーのスタッフがお見えになり，展示会の企画があること，クモについて学びたいこと，などを自己紹介された．「建築とデザインとその周辺をめぐる巡回企画展」の一環だという．聞けば，「小さな骨の動物園」「蜂は職人・デザイナー」など興味深いテーマを過去に行なっており，りっぱな図録を出しているのも見せていただいた．一風変わった視点からの展示会企画を楽しみに待つことになった．

大阪（3/7～5/23），名古屋（6/23～8/21）での開催のあと，東京展（9/4～11/22）が開かれた．平日のみの開館なので，小学校の運動会の振替休日に，娘と妻を誘って，出かけることにした．クモ好きの娘が同行するのは当然なのだが，私が妻をクモの会に誘うのは珍しい．それくらい「オススメ企画に違いない」と思ったのだが，期待は裏切られなかった．

会場の入り口には，新海 明さんの解説文がある．クモ網の観察と言えばクモ界に新海 明あり，だ．「私はクモを調べることはすなわち糸を調べることだとさえ思っています」．いつもながら初心者をも惹きつけるシンカイ節である．そして，さほど広くない会場に入ると，ところ狭しと額装の網標本が並べられている．これがクモ本体の標本やクモの拡大写真ばかりだったら，クモ嫌いの方は圧倒されて入りにくいかもしれない．しかし，青いバックに白い塗料を吹き付けられた糸が映える「網のデザイン」は，一般の人にもなにか落ち着いたものを感じさせるのだろう．シンメトリカルな円網はもちろん，一見不規則な全体のなかにも規則的な「編み方」



を感じさせるクモの網というのは、ちゃんと眺めれば多くの人の興味や知的好奇心を刺激するものなのだ。私もいろいろな観察会で初めてクモの網をちゃんと見る人たちのそういう驚きを見てきた。入り口で図録を買って入ろうとしたところ、受付の女性に「ちょうど品切れ(増刷中)で、隣の書店に一冊あるだけです」と答えられ、その人気に驚きもした。

娘は、昨年夏休みにズグロオニグモの網の観察研究をしたため、網を見る「目」をもっている。縦糸と横糸の本数、上下の対称性など、科学的な興味で各種の円網の細部に見入っている。他方、ぜんぜんクモに詳しくない妻は、スズミグモやジョロウグモの網を見て「へーこんなややこしい網もあるのね」、ムツガイセキグモの粘球作成映像を見て「このクモへんな形！」と、すっとんきょうな声を上げている。会場の一角には、ビデオスクリーンもあり、網標本の作り方や、クモの種や行動を紹介した映像が流されていた。

そして、個人的にはこの展示会の特筆すべき点は、図録にも収録されている「網につけられたタイトル」のユニークさだと思う。ジョロウグモ網が「女王の風格」、幼体網が同居したスズミグモ網を「クラゲの親子」、クロガケジグモ網が「破れたタイツ」、ゴミグモ網は「ゴミが命!」、コガネグモ網は「サインはX」、アオオニグモ網が「葉隠れの狩人」...等々、一度聞いたら忘れられないまいネーミングだと思った。

会場の外には、自然の事物をデザイナーの目から捉えた過去の企画展の図録も並んでいて、こちらにも興味を惹かれた。また、ブックレットを買い求めに隣の INAX 書店を覗いてみたところ、一角にはクモ関連の科学書籍や童話が並んでいた。他の棚のマニアックな品揃えにも、うならされた。考えてみれば「デザイン」という

分野は、それそのものの専門性だけでなく、「何をモチーフにデザインするか」という視角で、他のあらゆる分野と交錯するのだろうなあと、納得した次第である。

また、展覧会と並行して、INAX ギャラリー主催のクモ観察会も新宿御苑で開かれた(10/4)。私もガイド役に狩り出されたのだが、参加定員の 25 名がすぐに埋まる人気ぶりだったらしい。参加者は年齢性別様々だったが、皆とても熱心な方たちだった。少人数のグループにガイドがついて案内したが、すでにギャラリーを見て来られた人もいたので、ブックレットにあった「ネーミング」を拝借しつつ、ジョロウグモ、ハツリグモ、オオヒメグモ、ヒラタグモ、アシナガグモ、ゴミグモなどの網を実際に見つけて解説する。ごくありふれたクモの解説だけでも、次々に質問や感想がとびだし、閉園時間までの 2 時間半いっぱいを使っての会となった。新宿御苑は古い屋敷跡で、武蔵野の古来の林の名残りを残しているため、キシノウエトタテグモが生息している。その巣穴を見つけてみましょう、という呼びかけには、参加者はしばしば地面に這いつくばった。最初は「絶対無理」と尻ごむのだが、一つ見つけるとヤミツキになるのが、クモ穴探しの世界。そこですかさず、埼玉県方面に住んでいるという方に、「ぜひ周辺で見つけたら報告を」とそそのかすのも忘れない。

ヤワタ的には、新海 明さんと谷川さんが下見をした際には見つけていなかったビジョオニグモを最後に見つけて、参加者に見せて差し上げられたのも少し鼻が高い。これ、言ってみただかっただですよ、

「この網が『葉隠れの狩人』です。」

「この美しいクモがビジョオニです。美女なのに鬼・みたいな(笑)」



### 写真・日本クモ類大図鑑（改訂版）

千国 安之輔【著】偕成社（2008/07 出版）  
308p / 26cm / B5 判  
ISBN：9784030033603  
価格： ¥31,500 (税込)

長らく絶版状態で入手することができなかった写真図鑑が改訂版として再発行されました。発行以来 20 年が経ち、種名などにかなり変更すべき箇所が多くなりましたが、新海栄一さんの手により修正が加えられています。

旧時代の写植による版下のために、修正にはかなり制限があったとお話ですが、ともかく実用的に役に立つ図鑑であることには異論のないところだと思います。

### 県別クモ類分布図 ver.2008

新海 明・安藤昭久・谷川明男 自刊



県別クモ類分布図 C D を Ver.2006 から Ver.2008 へバージョンアップしました。文献数 1264 本、分布データ 56044 件、分布図収録種数 1490 種、写真収録種数 797 種となりました。価格は前バージョンと同じく 1 枚送料込 8140 円ですが、Ver.2006 をご購入くださった方は 1 枚送料込 2140 円とさせていただきます。ご購入くださるかたは谷川までご連絡ください。郵便：〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部生物多様性 谷川明男 E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

### ガラス蜘蛛

モーリス・メーテルリンク

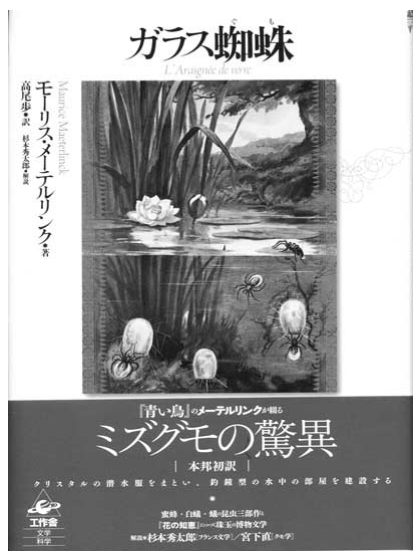
高尾歩 = 訳 杉本秀太郎 = 解説

税込価格 1890 円 四六判/上製 144 頁

工作舎 ISBN978-4-87502-411-8

不思議な空気のアンプルに守られて、快適な釣鐘型の家に暮らすミズグモ。その生態を通して、生命や知性の源・継承へ思いをめぐらす。メーテルリンクのもうひとつの博物文学の名品、本邦初訳。幼い頃の記憶を綴った最後のエッセイ「青い泡」も収録。(工作舎ホームページより)

宮下 直氏による解説も掲載されています。



## 採集情報

日本各地で採集された稀産種や，都道府県初記録，島初記録，南限更新，北限更新など分布上の重要情報について掲載する．これを読み，「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい．

ヨコフカニグモ 青森県三沢市砂森 2007年6月16日1 谷川明男採集同定

ナンブコツブグモ 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日1 吉田真採集，斉藤博同定

ノコギリヒザグモ 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日1 2 1y 吉田真採集，斉藤博同定

ヘリジロサラグモ 鹿児島県奄美市住用町大字東仲間 2008年3月17日1 2y; 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日1 11y 吉田真採集，斉藤博同定

リュウキュウセンショウグモ 鹿児島県奄美市

住用町大字川内 2008年3月16日2 吉田真採集同定

ノジマネオンハエトリ 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日2 吉田真採集，池田博明同定

カニミジグモ 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日1 吉田真採集同定

クロホシミジグモ 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日1 2 ; 鹿児島県奄美市住用町大字東仲間 2008年3月17日1 吉田真採集，谷川明男同定

トガリクサチヒメグモ 鹿児島県奄美市住用町大字川内 2008年3月16日1 2 吉田真採集，吉田哉同定

ハタチコモリグモ 岩手県下閉伊郡田野畑村平井賀 2008年5月8日1 新海明採集，田中穂積同定

オノゴミグモ 新潟県佐渡市佐和田(佐渡島) 2008年5月21日1 宮下直採集同定

ババハシリグモ 東京都青梅市小曾木 2004年5月30日1 新井浩司採集，谷川明男同定；愛知県新城市(旧作手村)長ノ山湿原 2008年5月25日2 緒方清人採集同定

リュウキュウアシナガグモ 千葉県夷隅郡大多喜町野々塚 2008年5月28日1 2

高木 R.俊採集，谷川明男同定．この他に千葉県鴨川市四方木，千葉県君津市清和県民の森，千葉県いすみ市荒木根山，千葉県鴨川市本沢林道沿いでも複数のメスを目撃

ムツトゲイセキグモ 香川県木田郡三木町 2008年7月18日1y 新海明採集同定

マメイタイセキグモ 香川県高松市西植田町ドングリランド 2008年7月19日1 八幡明彦採集同定；山梨県甲州市北洞沢 2008年9月13日，27日成幼不明雌2 個体青木由親写真撮影，谷川明男確認



マコモオニグモ

マコモオニグモ 長野県小諸市箆ノ登山  
2008年9月13日1 芳賀馨採集松田まゆみ同定

アカイソウロウグモ 鹿児島県屋久島中間フルーツガーデン 2008年7月24日1 馬場友希・宮下直採集同定

ホシミジングモ 鹿児島県奄美大島中央林道  
2003年3月15日1 馬場友希採集同定

ヤハズフクログモ 鹿児島県十島村宝島せんご線 2000年8月23日1 馬場友希採集同定

シロゴミグモ 鹿児島県十島村宝島一間道路  
2001年3月25日1 馬場友希採集, 谷川明男同定

ヒメアシナガグモ 鹿児島県十島村中之島七ツ山 1999年10月2日1 馬場友希採集同定

ウロコアシナガグモ 鹿児島県十島村中之島七ツ山 1999年10月4日1 1 馬場友希採集同定

クサイロフクログモ 沖縄県八重山郡与那国町祖内 2000年3月5日1 馬場友希採集同定

クサグモ 沖縄県石垣島於茂登岳 2005年7月15日1 馬場友希採集同定

ミナミノシマゴミグモ 高知県高岡郡大野見村(現・中土佐町) 2000年5月6日1 馬場友希採集同定

チブサトゲグモ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村 2001

年7月15日2 鶴晴朗採集, 馬場友希同定

オオジョロウグモ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村恩納川 2001年7月16日1 鶴晴朗採集, 馬場友希同定

ヒゲナガハシリグモ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村恩納川 2001年7月16日1 鶴晴朗採集, 馬場友希同定

ナガマルコガネグモ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村恩納川 2001年7月16日1 鶴晴朗採集, 馬場友希同定

ホシスジオニグモ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村恩納川 2001年7月19日1 鶴晴朗採集, 馬場友希同定

オナガアシナガグモ 沖縄県島尻郡渡嘉敷村恩納川 2001年7月19日1 鶴晴朗採集, 馬場友希同定

チュウガタコガネグモ 宮城県大崎市田尻大貫 2008年7月19日1 高田まゆら写真撮影, 馬場友希確認

カトウツケオグモ 群馬県桐生市桐生自然観察の森 2008年8月30日成幼不明雌1 個体寺内優美子写真撮影, 池田博明確認; 島根県安来市清水町清水寺 1991年9月2日1y 熊田憲一採集同定; 静岡県榛原郡川根本町元藤川 2002年6月2日1y 熊田憲一採集同定; 広島県広島市安佐北区可部町綾ヶ谷滑之下 2008年7月13日1y 熊田憲一採集同定

ウブゲワシグモ 北海道様似郡様似町アポイ岳 1995年7月13日1 1 保田信紀採集, 加村隆英同定

アカギメキリグモ 北海道天塩郡豊富町サロベツ原野 1991年6月9日1 保田信紀採集, 加村隆英同定

タイリクケムリグモ 沖縄県島尻郡渡名喜島フェリー乗り場 2006年3月22日1 加村隆英採集同定

フタオビトンビグモ 鹿児島県奄美大島湯湾岳  
1989年8月24日1 谷川明男採集,加村隆  
英同定;奄美大島湯湾岳 1995年6月25日1  
伴満採集,加村隆英同定;奄美大島神屋中央  
林道 1995年6月24日1 伴満採集,加村隆  
英同定;奄美大島金作原 2004年6月24日~  
7月10日2 1 亘悠哉採集,加村隆英同定;  
奄美大島奄美中央林道と里林道の分岐点付近  
2004年6月25日~7月12日1 亘悠哉採集,  
加村隆英同定;奄美大島嘉徳青久線 2004年6  
月27日~7月14日1 亘悠哉採集,加村隆  
英同定

ヒメバチグモ 沖縄県国頭郡国頭村沖縄島奥間  
2000年4月2日1 谷川明男採集,加村隆英  
同定

エラブウラシマグモ 沖縄県国頭郡東村沖縄島  
2007年6月1日2 加村隆英採集同定

ゲホウグモ 長野県飯田市龍江 2008年6月20  
日1 熊田宗幸採集,熊田憲一同定

キジロオヒキグモ 長野県飯田市龍江 2008年  
7月23日1 熊田宗幸採集,熊田憲一同定

ズダカサラグモ 長野県飯田市龍江 2008年7  
月23日1 熊田宗幸採集,熊田憲一同定

クロガケジグモ 香川県観音寺市粟井 2008年  
7月11日1 1 熊田憲一採集同定

サトヒメグモ 香川県観音寺市粟井 2008年7  
月11日1 1 1y熊田憲一採集同定

クロマルイソウロウグモ 香川県観音寺市粟井  
2008年7月11日1 熊田憲一採集同定

リュウキュウヒメグモ 愛媛県西条市丹原町鞍  
瀬 2008年7月11日1 熊田憲一採集同定

マダラヒメグモ 愛媛県松山市道後湯之町道後  
温泉 2008年7月11日2y熊田憲一採集同  
定;広島県広島市安佐南区八木 2008年7月  
12日2y熊田憲一採集同定

ヒゲナガツヤグモ 愛媛県松山市余戸中 2008  
年7月11日1 1 熊田憲一採集同定

ヤマトフトバワシグモ 愛媛県松山市余戸中  
2008年7月11日1 熊田憲一採集同定

マダラフクログモ 愛媛県松山市余戸中 2008  
年7月11日1 熊田憲一採集同定

カギフクログモ 愛媛県松山市余戸中 2008年  
7月11日5 3 熊田憲一採集同定

タイリクアリグモ 愛媛県松山市余戸中 2008  
年7月11日2 3 熊田憲一採集同定

チリグモ 広島県広島市安佐南区八木 2008年  
7月12日2 熊田憲一採集同定

クマダハナグモ 広島県広島市安佐北区可部町  
綾ヶ谷滑之下 2008年7月13日1y熊田憲  
一採集同定

(新海 明・谷川明男集約)

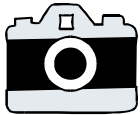
遊絲 21・22号会計報告(2007.9~2008.8)

収入

寄付	18800円
学会補助	70000円
繰越金	30109円
合計	118909円

支出

遊絲 21号送料	20000円
遊絲 22号送料	19120円
紙/封筒/トナー	44404円
小計	83524円
次号繰越金	35385円
合計	118909円



## ギャラリー



『ん?』

ピノキュラーでこの標本を見たとき、何か違和感があった。頭の中には“カニグモ属”まではすぐに沸いてきたのだが、“雄”なのか“雌”なのかピンとこなかった。それも当然だ。左が雄、右が雌のジナンドロモルフ（性モザイク）だった。残念ながら雄の触肢は脱落してしまっていたが、半分だけの外雌器からチシマカニグモであることがわかった。

(谷川明男)



### 編集後記

今年の夏は、はじめに四国に行き、おわりには九州を旅してきた。香川県では高松在住の三谷進さんの案内で栗林公園や金刀比羅神社でキシノウエトタテグモを採集することができた。いきなり知らない土地を訪れてこのクモを探索しても出会うことは難しい。ご当地の会員情報に感謝だ。九州地方は何度も訪れているが、今回はじめて椎葉村と西米

良村を訪ねた。急峻な渓谷を縫うように続く街道沿いに集落が点在し、採集地を探すのさえもなかなか困難だった。途上の標高 900m ほどの峠でキムラグモを探してみたが、「いた」のである。悠久の時の流れの中でキムラグモが経てきた「旅」に、あれこれと想いを巡らした探蛛行だった。

(新海 明)

### 遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

(谷川明男)まで

発行は、年 2 回(5月, 11月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

## 日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

〒520-0062 大津市大谷町-6 D-6

榎元敏也

E-mail: tmastume@pop21.odn.ne.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

〒187-0002 東京都昭島市東 3-11-18 203

(有)エコシス 初芝健吾

E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

Tel 042-501-2651

年会費 正会員 7000 円(学生は 5000 円)

郵便振替口座 00970-3-46745

遊絲 第 23 号

2008 年 11 月 25 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 鶴崎展巨